

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、2020年3月から中止していたてがたんですが、2021年4月より少人数・申し込み制に変更して再開しました。ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成いたしましたので、ご覧ください。

次回5月のてがたんは5月8日(土)で、テーマは「ツバメの子育て」です。ぜひご参加ください。5月1日から電話での申し込みを開始いたします。市民スタッフのみなさま、次回の下見は5月2日(日)です。

4月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→親水広場→けやき広場
- 観察日時と天気：2021年4月10日(土) 10:00~11:00 晴れ
- 参加人数：6名(大人6名)
- 市民スタッフ：3名(蒲田知子、小泉伸夫、伴野茂樹)
- 鳥博職員：3名(小田谷嘉弥、望月みずき、丸山正晃)

観察した生き物の記録

「*」は、下見だけで見られたもの。

【鳥類】

キジ科：キジ/カモ科：カルガモ、コガモ/カイツブリ科：カイツブリ/ハト科：キジバト/ウ科：カウウ/サギ科：アオサギ、ダイサギ、コサギ/クイナ科：オオバン、ヒクイナ(声)* /シギ科：タシギ/タカ科：トビ/モズ科：モズ/カラス科：ハシブトガラス、ハシボソガラス/シジュウカラ科：シジュウカラ/ツバメ科：ツバメ/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/ウグイス科：ウグイス(声)/エナガ科：エナガ/ムクドリ科：ムクドリ/ヒタキ科：ツグミ/スズメ科：スズメ/セキレイ科：ハクセキレイ/ホオジロ科：ホオジロ、アオジ(声)*、オオジュリン
家禽や外来種：コブハクチョウ(カモ科)、ドバト(ハト科)

【魚類】

コイ、ギンブナ、フナ類不明種(ギンブナまたはゲンゴロウブナ)、ハクレン(死体)、タウナギ*

【両生爬虫類】

ニホンアマガエル、ニホンカナヘビ*、ヤマカガシ*

【昆虫】

チョウ目：モンシロチョウ、キタキチョウ、ベニシジミ、ルリシジミ、ヤマトシジミ/コウチュウ目：ナナホシテントウ、コガタリハムシ、ヤナギリハムシ?、クロウリハムシ/カメムシ目：ヨコヅナサシガメ、ホシハラビロヘリカメムシ*/ビワコカタカイガラモドキ

【花】

草の花 キク科：セイヨウタンポポ、オオシバ、オニタビラコ、オオバコ科：オオイヌノフグリ、タチイヌノフグリ/ハエドクソウ科：ムラサキサギゴケ/バラ科：ヘビイチゴ、ヤブヘビイチゴ/シソ科：ホトケノザ、ヒメオドリコソウ/アブラナ科：ナズナ、ミチタネツケバナ、セイヨウカラシナ/マメ科：カラスノエンドウ/スミレ科：スミレ、タチツボスミレ/カタバミ科：カタバミ、オッタチカタバミ/ケシ科：ナガミヒナゲシ/ナデシコ科：オランダミミナグサ
木の花 ムクロジ科：イロハモミジ/ブナ科：コナラ/アサ科：ムクノキ/レンブクソウ科：ニワトコ/バラ科：サトザクラ(園芸品種)

4月の観察アルバム



今回のてがたんのテーマは「鯉の恋の季節」でした。親水広場からけやき広場までの手賀沼沿いを歩きました。風がなく穏やかな天候だったため、コイやフナ類の「のっこみ」がヨシ原のあちこちの見られました。さえずりや巣材運びなどの春らしい鳥の繁殖に関する行動も観察することができました。



今月の案内人
小田谷嘉弥



①ヨシ原を構成するヨシとヒメガマ



②漂着していた大きなハクレンの死体



③赤い毛の生えたアカメガシワの新芽



④下見で採集したコイ?の卵



歩いたルートと観察した生き物



⑤水草に産卵するフナの1種



⑥サブソングを歌っていたモズの雄



⑦魚を狙ってやってきたダイサギ



⑧芝生に群生していたムラサキサギゴケ

今月の鳥 モズ (スズメ目モズ科)

モズはスズメ目では珍しい肉食性の鳥で、小鳥やネズミなどを襲うこともあることから「小さな猛禽」とも呼ばれています。手賀沼周辺では9月ごろに渡来し、「高鳴き」と呼ばれるなわばり宣言を行います。この越冬なわばりは春まで維持され、雄のなわばりに雌が入ってくる形でつがいになり、1度目の繁殖が行われます。5月ごろにヒナが巣立つと、モズの成鳥は手賀沼周辺から一度姿を消します。この時期には、標高の高い地域や北日本に移動し、2度目の繁殖を行うのではないかと考えられています。モズは種に特徴的なさえずりを持たず、雄は他の鳥の鳴き声を真似した「サブソング」と呼ばれる小さい音量の鳴き声で雌に求愛します。このサブソングを早口で歌えるほど、早く雌とつがいになれることが知られています。



モズの雄の頭部。嘴は鋭くかぎ状になっており、獲物を捕らえてさばく時に役に立っている